「薬剤師臨床研修の効果的な実施のための調査検討事業」
薬剤師臨床研修の指導薬剤師育成に係るe-ラーニング講習会プログラム

※本プログラムは令和７年度と同内容となっております。

セッション	テーマ		学習目標	内容	講師(敬称略)	講義時間(目安)
セクション1：薬剤師臨床研修の基本理念と指導薬剤師の役割	1.1：薬剤師臨床研修とは	必須	薬剤師臨床研修の意義、目的、基本理念を理解する。	薬剤師を取り巻く環境変化と臨床研修の必要性 （卒前実務実習との違いとシームレスな教育体制、レジデント制度との違い） 薬剤師臨床研修ガイドラインの概要と目的 研修の基本理念：「薬剤師としての人格」「社会的役割」「基本的な薬剤師力」 到達目標：プロフェッショナリズムと10の資質・能力	石井伊都子 （千葉大学医学部附属病院）	20分
	1.2：指導薬剤師の役割、責務、要件		指導薬剤師に求められる役割と責任、必要な要件を理解する。	研修体制における指導薬剤師の位置づけと業務 指導薬剤師の資格要件（病院・薬局別） 研修プログラム責任者・実施責任者との連携の重要性 指導薬剤師の処遇とキャリア形成支援の理解	川上貴裕 （金沢大学附属病院）	20分
セクション2：効果的な研修指導法	2.1：指導の基本原則とプロフェッショナリズム醸成	必須	効果的な指導の基本原則を理解し、研修者のプロフェッショナリズムを育む指導法を説明できる。	指導の基本的な考え方：EBM（根拠に基づいた医療）に則った科学的指導、研修者個人に着目した個別指導、人間性豊かな指導 医療人としてのプロフェッショナリズムの4つの柱と指導 医療倫理（倫理原則、個人情報保護、インフォームドコンセント等）の指導ポイント	石井伊都子 （千葉大学医学部附属病院）	20分
	2.2：実践的な指導スキル		多様な指導スキルを理解し、研修場面に応じて適切に活用する方法を説明できる。	研修者への指導内容の体系（知識、技能、態度） 効果的な指導のための7つのポイント（Stanford Faculty Development Program） 指導薬剤師の6つの技法（問題解決者、模範、臨床管理者等） OJTとOff-JTの効果的な組み合わせと計画	鈴木正論 （帝京平成大学）	20分
	2.3：研修者の評価とフィードバック		研修者の成長を促す評価とフィードバックの方法を習得する。	評価の目的：形成的評価と総括的評価 評価方法：「到達度記録・評価シート」「評価票Ⅰ・Ⅱ」の具体的な活用法と留意点 ルーブリック評価の考え方とメリット 効果的なフィードバックの7つの観点 フィードバック面談の進め方（ロールプレイ動画例）	大久保正人 （千葉大学医学部附属病院）	20分
セクション3：主要研修項目における指導の実際（**ケーススタディ中心**）	3.1：調剤業務の指導	必須	調剤業務における処方監査から薬剤交付までの効果的な指導ポイントを理解する。	処方監査（個別化医療の視点、患者情報・検査値の活用）、疑義照会・処方提案の指導 、調剤手技（散剤、水剤、一包化等）、調剤鑑査、薬剤交付と服薬指導 、院内製剤の調製と品質管理指導	菊地正史 （秋田大学医学部附属病院）	20分
	3.2：医薬品供給・管理業務の指導		医薬品の適正な供給・管理業務に関する指導ポイントを理解する。	適正在庫管理、品質管理（温度・期限）、麻薬・向精神薬等の法的管理と帳簿記載 、医薬品供給不安定時の対応策立案指導	大木稔也 （イムス三芳総合病院）	20分
	3.3：医薬品情報管理業務（DI業務）の指導		DI業務における情報収集・評価・提供スキルを育成する指導ポイントを理解する。	信頼性の高い情報源の選択 、情報の批判的吟味と加工、効果的な情報提供（DIニュース作成等）、副作用情報収集と報告制度の指導 、採用医薬品に関する評価と提案	金井紀仁 （新座病院）	20分
	3.4：病棟業務の指導		病棟業務における薬学的管理と多職種連携を促進する指導ポイントを理解する。	患者情報収集（持参薬確認、アレルギー歴、ADL等）、薬学的管理計画の立案と実践（服薬指導、効果・副作用モニタリング、ポリファーマシー対策）、処方提案と医師へのフィードバック 、多職種カンファレンスへの参加と貢献 、退院時指導と情報提供書の作成（薬剤管理サマリー）	鈴木正論 （帝京平成大学）	20分
	3.5：在宅訪問（在宅医療・介護）業務の指導		在宅医療における薬剤師の役割と多職種連携を指導するポイントを理解する。	訪問前の準備（情報収集、薬学的管理指導計画書作成）、患者宅でのアセスメント（服薬状況、保管状況、ADL、QOL）、服薬支援と薬剤管理方法の提案 、医療保険・介護保険制度の理解、多職種（医師、訪問看護師、ケアマネジャー等）との連携と情報共有（報告書作成等）	村杉紀明 （日本薬剤師会）	20分
	3.6：無菌調製・がん化学療法の指導		無菌調製手技およびがん化学療法における薬学的ケアの指導ポイントを理解する。	無菌操作手技の指導と環境整備 、配合変化の確認、抗がん剤調製時の曝露対策と安全キャビネットの適切な使用 、レジメン管理と監査 、副作用モニタリングと評価（CTCAE等）、支持療法の提案 、患者・家族への説明と心理的サポート	蓑輪雄一 （がん研有明病院）	20分
	3.7：医療安全・感染制御の指導		医療安全と感染制御の重要性を理解させ、実践を促す指導ポイントを習得する。	インシデント・アクシデント報告の徹底と分析、再発防止策の立案指導 、プレアボイド報告の推進、標準予防策（手指衛生、個人防護具の使用）、消毒薬の適切な選択と使用方法、抗菌薬適正使用支援（AST）への関与	安全・金田昌之 （かわさき記念病院） 感染・佐伯康之 （広島大学病院）	各20分
	3.8：地域連携の指導		地域包括ケアシステムにおける薬剤師の役割と多職種・他施設連携の指導ポイントを理解する。	病院・薬局間連携：服薬情報提供書（トレーシングレポート）の作成・活用指導 、効果的な疑義照会、合同研修会や症例検討会への参加促進、地域における多職種連携（医師、歯科医師、看護師、ケアマネジャー等との連携）、健康サポート薬局の機能とプライマリ・ケアへの貢献 、災害時対応における薬剤師の役割	豊見敦 （日本薬剤師会）	20分
セクション4：研修者を支援する環境づくり	4.1：研修者とのコミュニケーションと関係構築	必須	研修者との信頼関係を築き、成長を支援するコミュニケーションスキルを習得する。	効果的なコミュニケーション技法（傾聴、共感、質問、明確な指示）、研修者のモチベーションを引き出す関わり方、相談しやすい雰囲気づくり	有田悦子 （北里大学）	20分
	4.2：メンタルヘルスサポートとストレス対処		研修者のメンタルヘルス不調を予防・早期発見し、適切に対応する方法を理解する。	研修者特有のストレス要因の理解 、ストレス反応のサインと早期発見、セルフケアの促進とラインによるケアの役割 、メンター制度の意義と活用 、専門機関への相談連携	有田悦子 （北里大学）	20分
	4.3：ハラスメントの防止と対応		ハラスメントを防止し、万一発生した場合に適切に対応する方法を習得する。	ハラスメントの定義、種類（パワハラ、セクハラ等）、具体的事例 、ハラスメントが研修に与える影響、予防のための環境整備と指導者の心構え、発生時の相談対応と報告義務	亀井美和子 （帝京平成大学）	20分